

メッセージ: イエス様とともに歩むことは信仰によって勝利のうちに歩むことである

OICの皆様おはようございます。ようこそ神の家に来られました。皆様を歓迎いたします。

今日は、引き続き使徒ヨハネの第一の手紙の意味を一節ずつ解釈して明らかにしていきます。聖書全体が聖霊様によって書かれたものです。これまでの使徒ヨハネの手紙第一からのわたしのメッセージで、ヨハネのクリスチャンに対する教えの意味を引き出そうとしてきました。これは、イエス様と共に親密に歩むことによって、クリスチャンが神様の御心を行えるようにするためでありました。今日のメッセージのタイトルは“イエス様とともに歩むことは信仰によって勝利のうちに歩むことである”です。

先週のメッセージは、<ヨハネ第一の手紙 4章 21節>で締めくくりました。

ですから神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。これは、神が命じておられることです。

もし神様が、天の父なる神様と御子の栄光と賛美のために、それを実現させる聖霊様の力を私たちに与えようとしなければ、神様は私たちにこのような不可能な行い、継続的な愛を求めることはないでしょう。前回のメッセージで紹介した讃美歌 387 番 (TH) “ああ、あなたのようになるために” は、それを正しく、真実に語っています。私たちは皆、この聖書の歌の歌詞を祈りとしましょう：ああ、あなたのように！ああ、あなたのようにになりたい。祝福された贖い主よ、あなたのように聖（きよ）らかでいられることを！あなたの美しさの中に来てください、あなたが満ちるように来てください。---あなたの姿を私の心に深く刻んでください。

石であり岩であるイエス様とはどんな方でしょう？

使徒ヨハネは次に、新しく生まれ変わったクリスチャンとは実際には何かを定義しています。「イエス様は誰でしょう！」という真理を信じるのが、世界をひっくり返す真実です。それは、滅びゆく者を救い、罪人を聖徒に変え、こうして傷ついた者、足の不自由な者から、生ける神様の無敵の教会を創造するのです。この真理「あなたはメシアであり、生ける神の子です。」こそ、イエス様が神様の御子であるという真理を信じることなのです。この言葉は、ガリラヤ湖のほとりでシモンという漁師が神様の恵みの中で初めて語ったものです。

西暦 29 年の夏でした。この力強い言葉のゆえにイエス様がシモンに新しい名前を与えました。なぜなら彼がこの言葉を口にしたからです。彼の新しい名前は「岩」を意味する「ペテロ」となりました。天から語られた御言葉による教会の誕生は、一人の人間、シモンの口からでありました。そう、イエス様は肉体を持った神様の言葉でした。教会の全体の誕生には、イエス様を信じるすべての人の内側に注がれる神様の聖霊様の息吹が必要です。これは、イエス様が十字架につけられてから 50 日後、西暦 30 年

5月28日のペンテコステの日まで起こりませんでした。しかし、イエス様が罪人のために十字架につけられるまで1年前、神様はシモンに、聖霊様が彼らの内側に来られる前に、聖霊様と共に働くための御言葉の力をお与えになりました。シモン=ペテロが語ったこれらの言葉は、罪人の霊的再生のためであり、今もなお、新しく生まれ変わるクリスチャンを生み出すためです。では、実際に最初どのようなことが起こったのか、読んで聞いてみましょう。

イエス様は初代の弟子たちに、群衆が言う「イエス様は誰なのか」について尋ねたところでした。そして、<マタイによる福音書16章15節-18節>に

15 「では、あなたがたは、どうなのですか。」

16 シモン・ペテロが答えました。「あなたこそキリスト（ギリシャ語で、救い主）です。生ける神の子です。」

17 「ヨナの息子シモンよ。神があなたを祝福してくださったのです。それを明らかにしたのは、人ではなく、天におられるわたしの父です。」

18 あなたはペテロ（岩）です。わたしはこの大きな岩の上にわたしの教会を建てます。地獄のどんな恐ろしい力も、わたしの教会に打ち勝つことはできません。」

したがって、新しく生まれ変わったクリスチャンとは、「イエス様はメシア（キリスト）であり、生ける神の御子です」と心から言う人のことであることは明らかです。イエス様の御名とその力ある御名を信じる重要性が、地獄の門がそれに反対する理由です。世界中の学習学校では、教室で宗教の議論をする際にイエス様の名前を出すと、教師は落第点を与えます。救いのためのイエス様の御名の重要性は、約2000年前と同じく変わりません。聖書は<使徒の働き4章10節-12節>にこう記しています。

10 そのことなら、あなたがた、いやイスラエルのすべての人たちに、はっきりお話ししたいのです。この出来事は、あなたがたが十字架につけ、神様が復活させてくださった、あのメシア（救い主）、ナザレのイエスの名と力とによるのです。

11 メシアのイエスは、まさに『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石になった』（詩篇118・22）と聖書にある、その石なのです。

12 この方以外には、だれによっても救われません。天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです。」

イエス様の兄弟ヤコブは、<ヤコブの手紙2章19節>で次のように述べています。

あなたは、神はただひとりだと信じています。それはりっぱなことです。しかし、悪魔もそう信じて、神を恐れているのです。

神様について良いことを言うだけでは十分ではありません！イエス様とは誰なのか..... 「あなたはメシア（キリスト）です。生ける神の子です。」というこの発言によってイエス様はご自身の教会を建て、失われた魂を救われるからです。

ヨハネは、当時1世紀のクリスチャンの間で流布していたマルコによる福音書に見られるこの真理を繰り返しています。また「救い主がどのようにして栄光から来た」のかを語るのが好きだったヨハネを含む多くの目撃者がまだ生きていました。＜ヨハネ第一の手紙5章1a＞にこうあります。

イエスはキリストである、すなわち、神の子であり救い主であると信じるなら、その人は神の子どもです。つまり、信仰によって勝利の道を歩むとは、イエス様への信仰、イエス様の御名だけへの信仰なのです。

不可能と不完全

＜ヨハネ第一の手紙5章1節b＞

父なる神を愛する人はみな、神の子どもたちを愛するはずです。

罪人がイエス様が自分の罪のために犠牲になられ、流されたイエス様の血潮を信じる信仰によって新しく生まれ変わったクリスチャンとなる時、聖霊様がその人の奥深くに入り、新しい人間を創造します。これは、すべてのクリスチャンに対する新たな態度や感情を引き起こします。これは、天の父なる神様の子であるクリスチャンへの愛を引き起こします。ヨハネは、この『教会への愛についての手紙』を通して、このことを繰り返しています。

＜ヨハネ第一の手紙5章2節-3節＞

2 そういうわけで、あなたがたがどれだけ神を愛し、従っているかで、神の子どもたちに対する愛がわかるのです。

3 神を愛するとは、そのご命令を守ることです。決してむずかしいことではありません。

ヨハネは、私たちが真理であるイエス様に近づいて歩むときの基本的なテーマ、すなわち真理を繰り返してきました。神様の戒めに従順なクリスチャンとなる力は、愛の力によってもたらされます。クリスチャンは、救いの賜物とともに受け取った賜物として、彼らの内に神様、すなわち愛を持っています。クリスチャンは神様ではないですが、イエス様のような、神様の子となる過程にあります。完全な服従は不可能に思えますが、愛と信仰が、神様への服従を実現させます。神様はすべてのクリスチャンに忍耐強く、彼らすべてを愛しておられます。しかし、聖書は＜ヘブル人への手紙11章6節＞にこう語っています。

信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神のもとに来ようとする人はだれでも、神の存在と、熱心に神を求めれば神は必ず報いてくださることを、信じなければなりません。

たとえ小さな信仰でも、クリスチャンは神様が不可能を可能にしてくださることを信じる信仰で、祈りながら道を歩むことができます。最初は信仰が小さかったクリスチャンが、最後には大きな信仰を持つようになるのだと時々私は思うことがあります。なぜでしょうか？なぜなら、彼らは成長する信仰を心から神様に求めているからです。そして、私たち自身がまだ不完全であります。神様の不完全な子供たちへの愛の贈り物が、「不可能」を「神様の御心の可能」へとされるようにします。それゆえ、神様がクリスチャンの心に置くこの愛は、神様の戒めに従うことを重荷にしません。

覚えておくべき重要点#1

使徒ヨハネは、この諸教会への手紙の中で、愛とイエス様への信仰、さらにはイエス様の御名における愛と信仰の間の神秘的で神聖な超自然的なつながりを結びつけています。世は「愛」と呼ぶものを喜びのためだけのものと見ています。世の人々にとっての力とは、弱者、特に敵を圧倒することから生まれます。イエス様は<ルカによる福音書6章35節>で言われました。

自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことなど当てにせずに貸してあげなさい。そうすれば、天からすばらしい報いがあり、あなたがたは神の子どもになれるのです。神は、恩知らずの者や極悪人にも、あわれみ深い方だからです。

だからヨハネは、愛が宇宙で最も偉大な力であることを私たちに明らかにしました。私たちが天の父なる神様のようにになるとき、私たちはこの力、愛であるこの神様とつなげられています。

この「覚えておくべき重要点」は、ヨハネがクリスチャンの敵である「この悪しき世界」を明らかにするために書いた次の節に合致し、その意味を浮き彫りにしています。<ヨハネ第一の手紙5章4節-5節>にこうあります。

4 神の子どもたちはみな、神に従います。そして、キリストに信頼することによって、この世の悪に打ち勝つことができるのです。

5 イエス様を神様の子であると信じる人以外に、世との戦いに勝てる人はいません。

世界の敵（人々）を愛することは、世を愛することではないということは注意する重要点です。<ヨハネ第一の手紙2章15節-16節>でヨハネが警告しているとおりです。

15 この世と、この世のすべてのものに、心を奪われてはなりません。もし、それらを愛するなら、神を愛していないのです。

16 すべての世に属するもの——罪の性質から起こる欲望、性的な欲望、暮らし向きの虚栄心——は、神から出たものではなく、みな、この世の生み出したものです。

この邪悪な世界に打ち勝つ

次に、<ヨハネ第一の手紙5章4節>をよく見てみましょう。

神の子どもたちはみな、神に従います。そして、キリストに信頼することによって、この世の悪に打ち勝つことができるのです。

ブルース牧師、「この邪悪な世界を打ち勝つ」とはどういう意味ですか？私たちは栄光に包まれたイエス様に会うまで、地上での楽な生活をそれは意味するものであってほしいと願います。聖書が私たちに語っていることは違います。さて、“すべての子供”に対する神様の計画は、ユニークで個人的なものです。神様はクリスチャン一人ひとりとの個人的な関係を望んでいます。しかし、私は、教会にとって、イエス様に寄り添って歩みたいと願うすべての信者にとって、神様のみこころが何であるかを私たちが知っているところから始めようと思います。

クリスチャンであることは周知の事実だが、神様は唯一であるという事実によって、クリスチャンである事実をより強固なものにしましょう！地獄に対する天国の希望の計画を強調するために、＜マルコによる福音書 12 章 35 節-37 節＞を見てみましょう。イエス様は、メシアは誰の子なのかという宗教指導者たちの誤りについて、群衆を正しておられました。

35 その後、神殿の境内で教えておられた時、イエスはこうお尋ねになりました。「ユダヤ教の教師たちは、どうしてキリストがダビデ王の子だと言いはるのですか。

36 ダビデ自身が、といっても、ほんとうは聖霊がダビデを通して語られたのですが、こう言っているではありませんか。『神が私の主に言われた。「わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで、わたしの右に座っていなさい。」』（詩篇 110・1)

37 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子でありうるでしょうか。」こういう議論に群衆は好奇心を募らせ、イエスの話に聞き入っていました。

イエス様がこちら側の地上を訪れた時、「『主はわが主に言われた』は、明らかに『天の父なる神様は御子に言われた』を意味します。

主を愛する神様の子は、自分の一時的な計画のためにイエス様の関心を見捨てるべきではありません。父なる神様の計画は、御子との約束を果たすことです：

わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで、わたしの右に座っていなさい＜マルコによる福音書 12 章 36 節＞

それゆえ、神様の子は皆、父なる神様と御子イエス様の目標、すなわち私の {イエス様} の教会を建設することに献身することによって、この邪悪な世界に打ち勝つのです。イエス様の敵とは、神様がイエス様の足下にへりくだらせる者たちです。

私は、個人的な賜物と適切な召命によって、イエス様の羊である教会の中で神様からの個人的な割り当てが異なることを理解しています。しかし、すべての教会員には、罪人を動かしてこの輝かしい言葉「あなたはキリストであり、生ける神の子です」と言わせる役割があります。このように言う罪人は皆、イエス様の敵である別の悪霊がイエス様の足下にへりくだったことを示しています。

信仰による勝利

すべてのクリスチャンには信仰の計りが与えられています。大きな信仰であれ、小さな信仰であれ、それは父なる神様と御子なる神様の目標と一致しなければなりません。— 信仰によって、この邪悪な世界に打ち勝つのです。私たちは聖書に“神のすべての子”を指すと読むから、責任を教会の指導者だけに限定していないことに注目してください。もしあなたが心の中で、失われた人を探し、救うために信仰を用いよというこの命令に喜んで従うなら、神様はあなたを用いられることを私は保証します。それは、あなたのライフスタイルが罪人を教会に引き寄せるのかもしれませんが。もしかしたら、罪人たちはたんにあなたのキリスト教に注目するかもしれませんが。もしかしたら神様は、イエス様の教会建設のための偉大な勝利のために、他の人よりもあなたの祈りに答えてくださるかもしれません。あなたの個人

的な「使命」が何であれ、それをおろそかにしてはなりません！神様は、キリストの体全体が信仰によってこの邪悪な世界に打ち勝つことを意図しておられるからです。

ひとたびクリスチャンが信仰によって勝利に貢献すれば、神様は彼らにより多くの御自身を現されます。これには、あなたがこの地上を通過して栄光へと向かう際の、一時的あるいは物質的な祝福も含まれるかもしれません。私はOICでは多くのクリスチャンがこの貢献をしていることを知っています。しかし、ここOICの親愛なる兄弟姉妹の多くに、疑念の雲が彼らの空を暗くしていることも知っています。さて、私は主とともに私の暗い空の日々を過ごしている自分を励ますために、こんな歌を歌っています。“さすがイエス様だけあって暗い雲を消えさせられる。”OICでイエス様に愛されているすべての人たちのために、イエス様がそうしてくださるよう求め続けましょう。そうすれば、この邪悪な世界に打ち勝つ信仰による勝利が達成されます。

ヨハネは再び、教会ではグループの成果であることを強調しています。ノンクリスチャンによって戦われるものではありません。＜ヨハネ第一の手紙5章5節＞には、

5 イエスを神の子であると信じる人以外に、世との戦いに勝てる人はいません。

ヨハネは、この書簡を読んでいるクリスチャンの聴衆が、クリスチャンになるためにイエス様の死の「血だらけの」詳細を知っていることを知っていました。だから、私がここに引用するように、ヨハネが福音書に書いたことをヨハネは繰り返しませんでした。このメッセージを聖人にも罪人にも同様に理解してもらいたいです。そこで、ヨハネの福音書からイエス様の十字架の多くを引用し、ヨハネの第一の手紙の意味を明らかにしましょう。

次に、＜ヨハネ第一の手紙5章6節-8節＞を見てみよう。

6・7・8 私たちは、イエスが神の子であると知っています。なぜなら、イエスがバプテスマ（洗礼）を受けられた時、そして、イエスが十字架の死を目前にされた時、天からの神の声がそのことを証言したからです。さらに、永遠に真実である聖霊も、そう証言しておられます。ですから、私たちには三つの証言があるわけです。すなわち、イエスのバプテスマの時の天の声、イエスの死を目前にした時の天の声、聖霊の声です。この三つが一致して、イエス・キリストは神の子であると証言しているのです。

啓示されるキリスト - 水と御霊なる聖霊

A.D. 27年、洗礼者ヨハネがヨルダン川でイエス様に洗礼を授けたとき、父なる神様は聞こえるような声で語られました。＜マタイによる福音書3章16節-17節＞にはこうあります。

16 イエスが、バプテスマを受けて水から上がって来ると、突然天が開け、イエスは、神の御霊が鳩のようにご自分の上に下るのをごらんになりました。

17 その時、天から声が聞こえました。「これこそ、わたしの愛する子。わたしは彼を心から喜んでいる。」

こうして神様は、ヨルダン川での父なる神様と御霊なる聖霊様による水のバプテスマという公の場で、イエス様が神様の御子であることを明らかにされたのです。バプテスマのヨハネは、後にこう証言しています。〈ヨハネによる福音書 1 章 32 節〉

ヨハネはさらに続けました。「確かに、聖霊が鳩のように天から下り、この方の上にとどまられるのを見ました。

啓示されるキリスト - イエス様の血潮

十字架によるイエス様の死

その日は聖なる金曜日、西暦 30 年 4 月 7 日、人間の罪のために神様の御子が十字架につけられた日です。

〈ヨハネによる福音書 19 章. 16 節〉

これでは、しかたがありません。ついにピラトもあきらめ、十字架につけるため、イエスをユダヤ人に引き渡しました。

〈ヨハネによる福音書 19 章 28 節-35 節〉

28 こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。これも聖書のことばどおりの出来事です。

29 そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてありました。人々は海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。

30 それをお受けになると、最後に、「すべて成し遂げた」とひとこと叫び、頭を垂れて息を引きたられたのです。

31 翌日は安息日でした。しかも、特別に重要な日でした。ユダヤ人の指導者たちは、どうしても死体を翌日まで十字架にかけたままにしておきたくありませんでした。ピラトに、受刑者たちの足のすねを折って早く死なせるよう取り計らってほしい、と願い出ました。そうすれば十字架から取り降ろせるからです。

32 さっそく兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた二人の男のすねを折りました。

33 最後にイエスのところに来て見上げると、すでに亡くなっていたので、すねを折るのはやめました。

34 ところが、兵士の一人が何を思ったのか、いきなり槍でわき腹を突きました。すると、そこから血と水が流れ出たのです。

35 この一部始終を、私は確かにこの目で見ました。それをありのままに、正確に報告しています。皆さんにも信じていただきたいからです。

英語(NLT)訳はここで重要な点を見落とししていることに注意してください。信じることを「続ける」ことができると書いてあります。原語のギリシャ語は、ヨハネが福音書の最終章で再び述べているように、ヨハネの福音書の意図を明確にしています。

<ヨハネによる福音書 20 章 31 節>しかし、これらのことが記録されているのは、イエスが神の子キリストであることをあなたがたが信じるためであり、また、信じることによって、イエスの御名によっていのちを得るためなのです。ヨハネの福音書では、英語の(NLT 版)はこのような訳です。

<ヨハネによる福音書 20 章 31 節>。あなたがたは信じ続けることができる。

ヨハネの福音書の聴衆は罪人であり、まだ信者ではありません。彼はヨハネによる福音書の中で、罪人を改宗させるという伝道の主旨を持っていたことは明らかです。

十字架刑は、死に至る極限の苦しみを伴う非常に血がしたたる出来事でした。ヨハネの 1 世紀の聴衆の誰もが、自分たちに強要されたローマ政府への反抗のために十字架につけられた多くの同胞ユダヤ人を知っていたし、おそらく目撃していたでしょう。犠牲者の手首は木製の十字架の梁に釘付けにされました。十字架の形は、梁が「木」または垂直のポールに持ち上げられるときに影響を受けました。そして、足は「木」または垂直の棒に釘付けにされました。

ヨハネの証言にある「血」とは、十字架刑の結果です。私たちの主の血が流れ始めるために、イエス様がピラトによって死刑を宣告されました。

<ヨハネによる福音書 19 章 1 節>

しかたなくピラトは、イエスの背中を鉛のついたむちで打たせました。

これが犠牲者の磔刑への第一歩でした。使徒の手紙の 2 つの目的を思い起こすと、第 1 にグノーシス主義の異端を正すこと、第 2 にクリスチャンが天国で栄光を受けるまでイエス様を信じ続けることを奨励することでありました。だから、グノーシス主義に対抗するためには、ヨハネがイエス様は肉体をもって来られ、すべての人と同じように本当に死なれた神の御子であることを証言することが不可欠でした。ヨハネは、この書簡を読んだクリスチャンの聴衆が、クリスチャンになるためにイエス様の死の「血だらけの」詳細を知っていることを知っていました。だから、私がここに引用するように、ヨハネが福音書に書いたことをヨハネは繰り返しませんでした。

<ヨハネによる福音書 John 19 章 33 節>

最後にイエスのところに来て見上げると、すでに亡くなっていたので、すねを折るのはやめました。

それゆえ<ヨハネ第一の手紙 5 章 6 節 a (英語訳) >

そしてイエス・キリストは、水によるバプテスマと十字架上で血を流すことによって、神の御子であることを明らかにされた、- 水だけによってではなく、水と血によって、

次に、<ヨハネ第一の手紙 5 章 6 節 b-7 節 (英語訳) >

6そして、真理である御霊は、その証言によってそのことが真実であることを確認する。

7つまり、この 3 人の証人がいる。

ヨハネは、聖霊様を、イエス様の水でのバプテスマ時にイエス様の上に現れた証人としてだけでなく、常に存在する真理の啓示者、イエス様の啓示者としても含めています。使徒パウロは<コリント人への第一の手紙 2 章 12 節-14 節>に語っています。

12 事実、神様は私たちに、この世の霊ではなく、ご自分の聖霊を与えてくださいました。それは、神からのすばらしい恵みと祝福という賜物を、私たちが知るためです。

13 この賜物について話す時、私たちは、自分が人間として選んだことばではなく、聖霊によって教えられたことばを使ってきました。つまり、聖霊のことを説明するには、聖霊のことばを用いるのです。

14 しかし、クリスチャンでない人は、聖霊が教えてくださる神の思いを理解することも、受け入れることもできません。彼らには愚かしく思えるのです。というのは、自分のうちに聖霊をいただいている人だけが、聖霊のお考えを理解できるからです。

人は、助け主である聖霊様なしに聖書を理解することはできません。つまりヨハネは、聖霊様が目に見えない風のように動いて、聖書とイエス様を現実のものとし、罪人が聖徒、クリスチャンになることを指し示しているのです。そして、真理である御霊なる聖霊様は、その証言によってそのことが真実であることを確認させています。

<ヨハネ第一の手紙 5 章 7 節-9 節>

私たちは、イエスが神の子であると知っています。なぜなら、イエスがバプテスマ（洗礼）を受けられた時、そして、イエスが十字架の死を目前にされた時、天からの神の声はそのことを証言したからです。さらに、永遠に真実である聖霊も、そう証言しておられます。ですから、私たちには三つの証言があるわけです。すなわち、イエスのバプテスマの時の天の声、イエスの死を目前にした時の天の声、聖霊の声です。この三つが一致して、イエス・キリストは神の子であると証言しているのです。私たちが法廷で証人のことばを信じるのなら、神の証言はなおさら信じられるはずです。神ご自身がはっきりと、イエスは神の子であるとあかししておられるのですから。

ヨハネはここで、イエス様の生と死の目撃者としての人間的証言に言及しています。すでに述べたように、ヨハネがこの手紙を書いた約西暦 55 年ごろには、多くの生き証人もいました。目撃者たちは、イエス様の洗礼のときに天の父なる神様が語り、聖霊様が現れたと宣言しました。また、使徒たち以外にも多くの弟子たちがイエス様の十字架刑を目撃しました。しかし、信仰の主な基礎は、使徒と預言者と御霊なる聖霊様の声を通して神様の言葉を信じることにあります。これらは永遠に「これが真実だ！」と言いつけるでしょう。

覚えておくべき重要点#2

イエス様に寄り添って歩むことは、信仰によって勝利の中を歩くことです。この信仰は、イエス様に寄り添って歩むことにあります。これはイエス様が神様の御子であることに信仰をもつことです。シモンが聖書の中で語ったように、彼は「生ける神の御子キリスト」なのです。聖霊様はこのことを、イエス様の水のバプテスマで確認されました。天の父なる神様が語られたとき、そしてイエス様を墓からよみがえらせたとき、天の父なる神様はそこでそれを確認されました。使徒ヨハネのような目撃者たちもそれを確認しました。しかし、神様が歴史において御子について証しされたように、神様の御霊なる聖霊様は今日この地上においてイエス様が御子であることを証しされ続けています。信仰によって勝利のう

ちに歩むとは、イエス様の御名が語られるところにはいつも御霊なる聖霊様がおられると信じることで
す！御霊なる聖霊様が、私たちがイエス様について語る聖書の言葉を人々に信じさせることを信じるこ
とです。イエス様に寄り添って歩むことで、自分自身と他者のためにこの邪悪な世界に打ち勝つ勝利を
得ることができると信じることです。

次に<ヨハネ第一の手紙 5 章 10 節>

10) このことを信じる人は、心でそう確信しています。信じない人は、神を偽り者と言っているので
す。イエスについての神の証言を信じようとしないからです。

ヨハネはここで、<ルカによる福音書 11 章 23 節>のイエス様の言葉を確認しています。わたしに味方
しない者はみな敵です。助けてくれない者はじゃまをする者です。

イエス様が神の御子であることに反対することは、神様を嘘つき呼ばわりすることです。 .

勝利とは、自分が永遠の命を持っていることを知ること

<ヨハネ第一の手紙 5 章 11 節-12 節>

11 神の言われたこととは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったこと、そして、永遠のいの
ちが神の御子のうちにあるということです。

12 そういうわけで、神の子を信じる人にはいのちがあり、信じない人にはいのちがないのです。

神様の約束においてのクリスチャンの確信は、この邪悪な世界に対する勝利を促進します。イエス様を
信じる者は皆、永遠のまたは永遠に続く命という賜物を持っています。ギリシャ語で永遠を意味する

「eternal」は、時間をさかのぼる場合にも、無限の過去にある神だけに使われます。そしてその

「eternal」はまた、無限の未来のすべてのクリスチャンが前進するためにも使われます。英語で同じ
言葉は「perpetual」（永続的な）という意味です。そのため、日常生活で行わなければならない単調
で疲れるような繰り返しは、永遠に続くか、終わりが無いように思えます。しかし、神様と一緒に永遠
の命の性質は神様ご自身の性質であられるものです。私たちは今、神様との交わりを持っています。栄
光に包まれたイエス様を見るとき、それは完璧なものになります.....永遠に、終わることのない、永
久の命。

このことは、私たちイエス様を信じ従う者に「打ち負かされない」という態度を与えるはずで
す。神様は私たちクリスチャンがそのように考えることを望んでおられるが、私たちは自分自身ではなく、イ
エス様に信頼を置かなければなりません。使徒パウロが<ローマ人への手紙 8 章 31 節>でローマの教
会を励ましたように、

こんなにすばらしい恵みに対して、いったい何と言ったらよいでしょう。神が味方なら、だれが私たち
に敵対できるでしょうか。

私たちの虚弱さや肉体的な弱さは、しばしばこの真理とは正反対のを感じさせます。 信仰の戦い
には、聖霊様の後押しと忍耐の助けが必要なのです。神様は、私たちが求め続けるなら、それを与えて
くださると約束されました。明らかに人間の力をはるかに超えた使徒パウロは、<コリント人への第 2
の手紙 12 章 10 節>で次のように述べています。

すべてはキリストのためであることを知っているのです、その「とげ」も、侮辱も、苦しみも、迫害も、困難も、大いに喜んでいきます。なぜなら、弱い時にこそ、私は強いからです。——無力であればあるほど、それだけ、キリストによりすがりようになるからです。

<ヨハネ第一の手紙 5 章 12 節>に

そういうわけで、神の子を信じる人にはいのちがあり、信じない人にはいのちがないのです。

イエス様を信じる者としてイエス様とともに歩むことは、このような神様からの「いのち」の性質を持つ唯一の歩みです。クリスチャンはそれを今持っているし、さらに良いことに、その先には永遠が待っています。イエス様なしにこの世を歩むことは、今、いのちを持っていないことであり、永遠の死につながります。

ヨハネの手紙の結び:

永遠の命の確信-内なる御霊なる聖霊様-神様による証し

13 すでに神の御子を信じているあなたがたにこのように書き送るのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、よく自覚してもらいたいからです。

西暦 55 年、ヨハネはイエス様の福音書を書いていました。罪人が救いのためにイエス様を信じるようになるための福音書です。彼はまた、このキリスト教徒への手紙を書いていました。ヨハネは、イエス様の真理ではない信仰だが「告白」を伴い、グノーシス主義を混ぜたものがほとんどの「異端者」に反対してクリスチャンに自信を与えなかったのです。イエス様は肉体をもって来られたので、彼らはイエス様が神様であることを否定したからです。ヨハネの聴衆は神様の御子の名を信じる者たちであったから、彼は勝利のために彼らの信仰を強めたのです。彼はギリシャ語で「知っている」という意味の“oida”を使いました。それゆえ、彼はこれらの信者に信仰をより深く理解させ、永遠のまたは永遠に続く命があるという確信を深めてほしかったのです。私たちクリスチャンのこの確信は、イエス様を信じる確信に満ちた信仰によって、この邪悪の世に勝利することにつながります。

ヨハネもまた、彼らの勝利は彼らの内におられる御霊なる聖霊様によって保証されていると語っていました。<ヨハネ第一の手紙 4 章 4 節>はこう言っています。

愛する子どもたち。あなたがたは神の側につく者として、キリストに敵対する者と戦い、すでに勝利を収めてきました。それは、あなたがたのうちに、この世にいるどんな悪い教師よりも、はるかに強い方がおられたからです。

クリスチャンには勝利の確信があります。なぜなら、彼らの内にある神様の聖霊様は、世にある反キリストの悪霊よりも偉大だからです。

さて、ヨハネはクリスチャンに勝利の理由をさらに次のように語っています。

<ヨハネ第一の手紙 5 章 9 節>

私たちが法廷で証人のことばを信じるのなら、神の証言はなおさら信じられるはずですが、神ご自身がはっきりと、イエスは神の子であるとあかししておられるのですから。

イエス様とともに歩むことは、この邪悪な世界に対する信仰による勝利のうちに歩むことです。神様ご自身、天の父なる神様と御霊である聖霊様が、イエス様が神様の御子であることを証言されたのです。これはどんな人間の証言よりも偉大であり、私たちの最大限の信頼に値します。私たちは、イエス様とともに歩むように、神様への信仰によって勝利のうちに歩みます。だから私たちは、イエス様の敵をイエス様の足下にへりくださせるという約束を守ってくださる神様への信仰によって、勝利の中を歩むのです。

私たちの歩みはますますイエス様に近づき、より多くの喜びに満たされるようになります。私たちの歩みは、栄光のうちに終わるまで、永遠にますます近づいていきます。信仰は視覚となり、私たちはイエス様を見ます！！

祈りましょう、....